

# 歳出拡大 動いた安倍氏ら

## 参院選見据え、首相に直談判

### 与党内、抑え役は不在

政府が19日に閣議決定した経済対策は財政支出ベースで55・7兆円と過去最大規模になった。自民党は安倍晋三首相らが来夏の参院選を見据えて積極財政を働きかけた。財政拡大を掲げた衆院選で絶対安定多数を得たのも後押しとなり、政府・与党内に抑え役はいなかった。(一面参照)

#### 「真水で30兆円」

「今すぐ使える真水で30兆円を上回る規模が必要だ」。安倍氏は17日、自らの事務所を訪れた岸田文雄首相に要請した。11日に最大派閥、清和政策研究会(安倍派)の会長に就任した際のあいさつで言及した金額を首相に直接伝えた。

安倍氏は派閥会合で国産ワクチンの開発や経済安全保障などへ投資する

重要性を強調していた。経済安保の強化に向けた新基金は補正予算案で当初の1000億円規模から5000億円へ上積みとなった。

安倍氏は首相との会談後、周囲に「補正予算案で気を使ってもうった」と笑顔を見せた。積極財政は安倍氏の経済政策「アベノミクス」の3本の矢の1つだった。安倍氏は今回も大型の経済対策を組むよう主張していた。党内に影響

張っていた。党内に影響力があるだけでなく、最大派閥の領袖にもなった安倍氏の依頼は首相にとって重い。

衆院選後に勢い高市早苗政調会長も安倍氏に呼応して動いた。9月の総裁選でアベノミクスの路線継承を掲げた。党本部を訪ねて来る財務省幹部に「地方の負担分や財政投融資を除いて30兆円超」を求め続け

#### 自民党は歳出拡大を求め続けた



安倍元首相

「今すぐ使える真水で30兆円を上回る規模が必要」(17日、岸田首相との会談で)



茂木幹事長

「真水で30兆円を超えることが大きなメッセージ」(18日、派閥会合で)



高市政調会長

「地方の負担分や財政投融資を除く真水で30兆円超を」(11月上旬から財務省幹部に繰り返し強調)

#### 反発



矢野財務次官

・与野党の政策論争を「ばらまき合戦のようだ」  
・経済対策に「コストや弊害含め吟味すべきだ」  
・日本の財政状況を「タイタニック号が氷山に突進している」(文芸春秋11月号への寄稿)

た。

首相は衆院選で数十兆円規模の経済対策を取りまとめると約束した。自民党が単独過半数を上回る絶対安定多数の261議席を得ると歳出拡大論の勢いが増した。

来夏の参院選を指揮する茂木敏充幹事長や世耕弘成参院幹事長も「真水で30兆円超」と歩調を合わせた。首相官邸も止めようとはしなかった。党の財政再建推進本部は18日、財政政策検討本部へ改組すると決めた。名称から「財政再建」が消え、本部長に財政拡張派で知られる西田昌司氏が就いた。

翌19日に財政健全化推進本部という新組織を設けたものの、党内の関心は成長戦略や財政規律よりも歳出拡大に傾く。財務省の動きは結果として裏目に出た。矢野康治次官は衆院選前、月刊誌への寄稿で与野党の経済対策論争を「バラマキ合戦」と断じた。「大衆失礼な言い方だ」「全国会議員をばかにした話だ」。高市氏は矢野氏

を批判し、衆院選公約を練る党幹部会も財務省への異論が相次いだ。経済対策の規模を抑えようという訴えは反発を招き、一段の膨張へと逆に作用した。

矢野氏は寄稿にあたって財務相だった麻生太郎氏の了承をとってはいなかった。麻生氏が10月に党副総裁へ転じると、閣内で予算膨張に歯止めをかける役は事実上いなくなった。

自民党は公明党が主張した18歳以下への10万円相当の給付には所得制限をかけた。世帯主の年収で960万円という線引きを疑問視する動きはあったものの、世論の「バラマキ批判」を考慮した対応にとどまった。

中長期的成長力引き上げにつながるような予算を求める動きは限定的だった。

来夏に参院選を控え、歳出拡大論は強まる見通しだ。首相は10日、首相官邸で公明党の山口那津男代表と会談し「衆院選で訴えたことをできるだけ早く実現できるようにしよう」と話し合った。政府・与党内で財政規律の緩みを縮め直す動きは見えない。大型の国政選挙が当面なくなる参院選後まで機運は出てこない公算が大きい。